

議事録

会議名	平成28年度 野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会					
開催日時	平成28年7月3日（日）午後1時30分～午後3時30分					
開催場所	野村胡堂・あらえびす記念館ホール					
審議会次第	<p style="text-align: center;">辞令交付</p> <p>1 開会</p> <p>2 挨拶（熊谷町長）</p> <p>3 職員紹介</p> <p>4 会長互選</p> <p>5 報告事項</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 指定管理への移行について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 平成27年度事業報告について</p> <p>6 審議事項</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 平成28年度実施予定事業について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 来年度以降の実施事業等について</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) その他</p> <p>7 その他</p> <p>8 閉会</p>					
運営委員出欠状況	会長	杉本 <small>つとむ</small> 勉（再任）	出	委員	鈴木 <small>ふみひこ</small> 文彦（再任）	出
	委員	江藤 <small>ひでいち</small> 秀一（再任）	出	委員	住川 <small>みどり</small> 碧（再任）	出
	委員	太田 <small>あいと</small> 愛人（再任）	出	委員	山際 <small>まさゆき</small> 正之（再任）	出
	委員	下町 <small>しもまち</small> 順子（新任）	出			
行政	町長 熊谷 泉			教育長 侘美 淳		
	副町長 藤原 博視			教育部長 石川 和広		
	生涯学習課長 俵 正行			学習推進室長 谷地 和也		
指定管理者 （記念館協力会）	野村胡堂・あらえびす記念館長 （協力会理事長）野村 晴一			野村胡堂・あらえびす記念館 協力会事務局長 長澤 成喜		

野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会の記録

進行（課長）

辞令交付（町長） 補助：室長

運営審議会委員名簿（五十音順）に従い、江藤委員、太田委員、下町委員、杉本委員、鈴木委員、住川委員、山際委員の順に辞令交付を行う。

挨拶（町長）

委員の皆様には、ご多用のところ遠路おこしいただき誠に有難うございます。それぞれの立場から貴重なご意見を頂戴しておりますことにあらためて感謝申し上げます。

特に今まで町直営の記念館として運営を行ってきましたが、今回 NPO 法人を設立いただき、今年度から指定管理という新たな仕組みで、町からの支援は従来とほぼ変わらない形での施設運営へと移行しております。野村館長には苦勞を掛けておりますが、今後もこの制度により館の運営を継続していきたいと考えています。

来館者については、開館当初のように大勢の方々に来てもらうのは難しいと認識しており、他の施設も同様に来館者が減少する傾向にあります。こうした状況に配慮しつつ、胡堂先生の偉業を顕彰する施設として、今後とも紫波町の宝として顕彰活動に取り組んでまいります。

昨晚、昭和 41 年卒の 50 周年を記念する高校の同窓会（白亜会）があり、野村学芸財団の新理事長に就任された”高橋利宏”さんと親しく飲み交わす機会に恵まれ、その際に財団の運営にあたり「低金利時代に責任重大だ」との話をされておられました。是非、こうした縁の方々と一体となって”同志”（野村学芸財団の奨学生 OB で組織する「堂子会」を比喻）を発掘しながらさらに活動を盛り上げていきたいと思っております。

職員紹介（課長）

委員については、先の辞令交付の順番で自己紹介。行政と協力会については、課長が紹介。

会長互選

記念館条例施行規則の規定に基づき、委員による会長の互選を行う。立候補及び推薦が無く事務局（案）として、杉本委員を会長に推挙し満場一致により了承される。

< 会 長 > ただ今、会長に選出いただきました杉本と申します。よろしくお願ひいたします。1976 年（昭和 51 年）に野村学芸財団の奨学生として採用いただき、3 年間奨学金をいただきました。今話題となっている給付型の奨学金のまさに先駆けだった訳で、それで親孝行いたしました。その恩返しのため精一杯務めさせていただきます。

振り返りますと岩手堂子会の一員として、少しでも力になればとの思いで、記念館が開館して最初の野村記念コンサートの時に、県民会館中ホールで行われましたが、その時もお手伝いさせていただきました。現在、岩手堂子会の代表も務めさせていただいておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

それでは、議事に入ります。5 の報告事項について事務局より、(1)「指定管理への移行について」と(2)「平成 27 年度事業報告について」を一括し報告をお願いします。

< 事 務 局 > 別紙資料（指定管理移行）及び会議資料の 5 報告事項について谷地室長が説明。会議資料に無い「胡堂・あらえびす大賞 感想文コンクール」について、応募状況等に関し実績数値を交えて報告する。

< 委 員 > 先ほど説明のあった指定管理への移行についての 2 頁目の組織図についてと本日の記念館運営審議会との関係について説明願ひたい。

< 事 務 局 > 本日の運営審議会については、指定管理になりましても町の方で運営することで実

施しており、指定管理団体の記念館協力会の組織図には出てこないこととなります。通常の運営事業の部分と施設管理の部分が指定管理になったと、ご理解いただければと思います。

<委員> 先ほどの読書と音楽の感想文コンクールの関係で、小学生の読書が 82 件、音楽が 4 件であり、中学生の音楽が応募作品なしと言うことで、ちょっと寂しいなど感じた次第です。宣伝の仕方が悪いのか、その原因についてはどのように見られますか。

<教育長> 以前に当審議会において、ご提言いただいております「胡堂」と「あらえびす」双方を顕彰するための読書及び音楽鑑賞に関する感想文の取組みについて、将来の夢としては全国規模のコンクールですが、初年度の 27 年度は、まず地元からということで実施に移しております。

従来から小中学生を対象とした読書感想文コンクールを行ってまいりました。これに「あらえびす」の業績を顕彰する音楽鑑賞文を新たに加えて開催したものです。

ご指摘のとおり PR 不足ということもありますが、小中学校における音楽の授業自体が昔に比べて減少してきており、実績のある読書感想文のように一気に多くの作品応募が難しい状況にあると思われま。

したがいまして、音楽の部分については少し進め方の段取りについて、配慮しなければならないとされているところで、今後、改善を図りながら全国展開できるよう取り組みたいと考えております。

<委員> 先の江藤委員の質問に関連して、この読書感想文なり音楽鑑賞文の作品について、我々、委員を含め一般の方々にお知らせする方法として、記念館の広報誌「銭形通信」に掲載するとか何か具体的な方策を考えていますか。

<教育長> 従来の読書感想文については、小冊子を作成して小中学校など関係者に配布しております。今回も範囲が紫波町内でしたので、あまり大げさにしないで上位入賞者について、記念館を会場に小・中・高生ごとに各自作品を発表していただき、表彰式を開催しております。

今後、応募作品の CD 化を検討したり、広報の部分として町の教育委員会ホームページに入賞者の作品を掲載して、内外に PR しながらその周知を図って行きたいと考えています。

<委員> その冊子は、今、我々も目にできたり、後でいただくことはできる物でしょうか。ちなみに高校生・一般の部では、何点か応募作品はありましたか。

<教育長> 後日、ご自宅にお送りさせていただきます。内容的には、まだ稚拙な部分もありますが最初は、そこからのスタートだと思っており、今後、内容の充実も含めて拡大を図って参りたいと考えています。

高校生・一般の部では、地元の紫波総合高校の生徒から、なかなか内容の優れた作品の応募が 1 点ございました。

<委員> 教育委員会に関係することで、この記念館の周辺環境とか建物のことだとか収蔵品について、どれくらいの町民が知っておられるか。特に、いろいろな感情が芽生える中学生ぐらいの方についてどうなのか。

私は遠足やハイキングなど町が事業として主導いただき、収蔵品としてクラシック音楽に関連するものや浮世絵コレクションなど、他にない宝物があるということを中心に、その目と耳で確かめていただきたいと思っております。まず町民に宝物のコレクションが、ここにあるということを知らせることが大切だと思っております。

2 点目として、盛岡市内の高校から生徒を連れてきて、じかに記念館の建物と収蔵品に触れさせる機会を設けるため、コネクションを作っておく必要があると思っております。

そうすることによって、記念館を知る機会が非常に多くなると考えます。

3点目は、記念館の知らせる役割（レファレンス業務）をもう少し拡大しても良いのではないかと感じています。埋もれた宝を再び世に知らせる役割もあるのではないかと感じております。それは記念館だけではなく、東京にある野村学芸財団の方々にも協力してもらいながら、古いレコードに興味を持つ方々に広めていただければと考えているところです。時には東京の「レコード芸術」「音楽の友」の社員を招待して、「アティモ音楽祭」あれを聴かせるのも一つの手ではないでしょうか。

また音楽学生の夏季練習場として、この場所を提供してはどうでしょうか。宿泊は民宿形式にしても面白いのではないかと思います。昨年も申しましたが、小岩井牧場に「音楽の家」と呼ばれる施設が一軒ありまして、女性の看守が寝泊りする芸大の学生の面倒を見ており、毎年、夏場を中心に合宿が行われ地元でも音楽公演等を開催して喜ばれております。こうした取組みを教育委員会として、検討していただき是非実現していただきたい、これは私の念願ですのでよろしくお願ひしたいと思います。

<教 育 長> 宝物に関する周知への取組みについて、会議資料にもありますとおり記念館ホームページへのアクセス数を見ていただいても分かるとおおり、アクセス件数が増えてきていることから、成果があがりつつあるものと判断されます。また、機会あるごとに広報（施設及び実施事業等）に努めているところです。

こういうジャンルの施設（人文系記念館）であり、若者を中心に多様化の時代にある中で、この施設の良さをいかにお知らせし、興味を持たせて若者を引き込んでいくか、今後に向けた課題だと考えております。

一例として子どもたちを対象に教育委員会と記念館の共催で天体観察会や、記念館独自の取組みで昔遊びなどを体験いただくキッズフェスティバルを実施しております。

先日、月例の校長会議において、野村館長の指導のもとレコードを聴きながら記念館の説明を行い、学校のトップへの理解促進にも努めております。また、野村館長による出前講座を実施し、記念館の魅力等について情報発信する場を設けて、いつでも日程相談のうね対応すると伝えており、今後も充実させていきたいと考えています。

高校との連携については、音楽でトップレベルの学校（不来方高校）が隣の矢巾町にあり、音楽とつながりが深い「あらえびす」（記念館）とこの地区の彦部公民館が協力して、毎年ここを会場にクリスマスコンサートを開催し、地区住民や町内外の方々が多く集まる場になっておりますので、記念館をアピールする非常に良い機会となっております。

音楽学生の練習合宿の件について、紫波中央駅前に新たにビジネスホテルが建設され、そこにはバレーボール専用コートが併設されており、オリンピック仕様の床材が使用されて動きやすいこともあり、盛岡市内の小学校の吹奏楽部によるマーチングの練習合宿が行われているという事例があります。その発想からいけば、都内にある音楽大学と提携してミュージックキャンプを行いながら、その成果を広く内外に示すコンサートの開催等について深く考慮しております。交流による経済の部分も含めて、今後の検討課題だと考えております。

<委 員> 校長先生を動員するという考えはいかがでしょうか。盛岡市を含めてコンサートを開催すると大勢の教育関係者が来られるし、（記念館への）理解が深まると思います。何とか規模を拡大する方策を考えていただければと思います。

<教 育 長> （盛岡市を含めることは、紫波町教育委員会の権限を越えてしまうことになる。）そうしますと教育委員会が外れてきますので、なかなか難しいと思われれます。ご提言として受け取らせていただきます。

<会 長> ここで報告事項を終了して6審議事項に入らせていただいてよろしいですか。（異議なしの声あり。）それでは、報告事項を終結して審議事項に入ります。事務局より
(1) 平成28年度実施予定事業について説明願ひます。

- <事務局> 会議資料の6審議事項の(1)平成28年度実施予定事業により俵課長が説明する。
- <教育長> ひとつ補足しますと読売新聞との共催で行うレコードコンサートについては、イタリア人のフランコさんが講師を担当することになっておりましたが、先ほど話が合ったとおりご家族の体調のことがありまして、私が代わりに務めることになりました。広く一般にレコード芸術を楽しんでいただく企画と言うことで、ご承知おきください。
- <委員> この読売新聞の関係は、先方から言ってきたのですか。それとも、こちら（記念館）から誘ったものですか。
- <館長> 記念館に読売新聞の記者が来た時に、野村胡堂の葬儀会場で読売の楽団が交響曲を演奏したとの話をして、そのレコードが当館に収蔵されているとお知らせしたことがきっかけで、「それでは読売としても何か文化活動をしなければならない。」と言うことで、話がまとまり今回で5回目となるものです。
- <委員> それはいい話ですね。こうした流れで事業を継続していただければと思います。私も本局には知り合いがおりますので、何かのついでに話をしてみることができます。読売交響楽団も、いつも忙しいという訳では無いでしょうから、記念館に来ていただくことも夢ではないと思われまます。
- <館長> 最初はオーケストラによる生演奏を希望したのですが、長く行なうには経費が係り過ぎるということで、レコードでお願いすることになったものです。良く岩手にも楽団のメンバー4・5人が、震災の被災地を慰問して演奏活動をしておられます。
- <委員> 確認ですが、別紙の中期運営方針（案）については、各項目の中で予算措置を伴うものですが、(1)の28年度実施予定事業の中で話し合われる内容ものですか。
- <事務局> 次の審議事項(2)の来年度以降の実施事業等についての資料として作成したもので、その中で説明したいと存じます。
- <会長> (1)の今年度予定事業について、引き続き何か確認したいことはございませんか。それでは、次に(2)に入らせていただければよろしいですか。事務局より説明願います。
- <事務局> 野村胡堂・あらえびす記念館 中期運営方針（案）、別紙により俵課長が説明する。
- <委員> 質問と意見を申し上げます。まず質問ですが、SPレコードのデジタル化の件についてですが、昨年9月に録音学会会長を連れてこちらに伺いまして、具体的な録音方法等について説明・提案させていただいた経緯があります。先ほど平成31年頃までかけて整備すると説明がありましたが、どのような方法で「あまりお金をかけない」で行うのか。
その辺について、どういったお考えで、どういうふうに進めて行かれるのか。具体的な教育委員会の方針についてお聞かせ願いたい。
- <教育長> 結論だけ端的に申し上げますと、高機能で録音しても活用用途が狭いということもあり、ややランクを落としても、まずデジタル化を進め貴重な音源を保存することにして、いつでも聞ける状態にしておくという方針を立てました。
デジタル化することによりレコードが破損しても録音した音源が残っており、昨今の録音技術ですと器材もそれなりの精度ですし、そんなに難しいことはなく録音できることから、その様に対応したいと思っております。
時期につきましては随時、今年から出来ることは進めて参りたいと考えております。

- <委員> そうしますと外部に委託するとか、そういうことは無しに館内で作業を進めて行くということですか。
- <教育長> その通りです。業者等には任せないで、出来ることはどんどん内部で進めて行くという考え方です。
- <委員> ご承知のとおり、5万円から6万円程度の機械で録音ができるということですので、ご説明のとおり館内でどんどん録音を進めて行っていただければと思います。
したがってこれは、お金のかからない作業ですので可能な限り早めて対応いただきたい。
- <教育長> 野村館長とも合意を図りながら、出来るだけ早く対応したいと思います。
- <委員> 確認したいことがあります。学芸員の確保という項目がありますが、今、学芸員は何人おられますか。
- <教育長> レコードコンサート等の企画調整や準備、音楽関連の説明をお願いしている女性の学芸員が一人おられます。
音楽大学の卒業者で、その後、学芸員の資格を取得し音楽に関しての催事・展示などに中心的に関わってもらっています。
しかし、この記念館は野村胡堂の作品を中心に文学についても顕彰する施設ですから、文学に造詣の深い方を採用したいということで、指定管理を記念館協力会にお願いする時に、こちらからのお願い事項としてそうしたスタッフを整えるよう要望し、人的配置にかかる人件費の予算措置を行っているところです。
ただ、4月1日の任用に向けて2月頃に学芸員の募集を実施したかったのですが、予算が通っておりませんでしたので、実はまだ採用に至っておりません。
今後、新卒の大学生とか或いは審議委員の皆様から、こういう人もいるといった情報等を寄せていただき、29年度の4月採用に向けて、準備を整えているところです。
- <委員> ちなみに、その職員の採用区分は期限付きの採用ですか。本採用ですか。
- <教育長> 本採用の予定です。
- <議長> それでは、ここで委員一人ひとりからご意見をいただきたいと思いますので、太田委員から順次よろしくをお願いします。
- <委員> 学芸員については、箱石（元運営審議会委員）さんの時代から熱望されていた事項です。
出来れば長くいて、文学・芸術に携わり知識を蓄えて、記念館を訪れた人にじかに説明できるような、学芸員を育てる体制が必要だと思います。往々にして、せっかく美術・芸術関係の学芸員として一人前になったと思ったら、本採用でないためか他のところに引っこ抜かれてしまうケースがあったりしますので、職員待遇等についても考慮されるようにお願いします。
町長には、長期スパンでの人材養成を考えていただき、人事異動で他の部署に異動することのないように配慮をお願いし是非、学芸員を育てていただきたいと思います。
- <委員> 全く同感であります。私も退職して現在、盛岡市都南歴史民俗資料館の館長を勤めておりますが、優秀な職員であっても盛岡市の学芸員は基本的には、5年の期限付きの職員であるため、なかなか研究が深まらないというか、知的探求が根付かない状況にあり、任期が終わるとまた渡り鳥のように別の文化施設の学芸員採用試験を受けた

りしておりますので、見ていて気の毒であり学芸員の確保については、是非よろしく
願います。

<委員> 実は私が運営委員をしている鶴岡市の藤沢周平記念館も5年と聞いています。他にもよく知っている世田谷文学館とか仙台市文学館とかも同様に調べてみますと、学芸員の任期が5年と定められているようなのです。5年勤めていただいて、一端、辞めてもらって再度雇用されるのか、その仕組みは分かりませんが、そうなっているようです。

長く携わると、そのことに対する蓄積が増えて結果として、良い仕事に結び付くと
思いますので、こうした視点から今後の取組みをお願いします。

<教育長> 本当のところは、どこでも学芸員として専門家を雇いたいと考えているのですが、
学芸員という職種についての理解が、自治体においてまだあまり深まっていないこと
の現れだと思えます。

本採用となれば、定年までの雇用となり給料の昇給もありますし、退職金の支給等
福利厚生面でも大きく待遇が改善されることとなります。多分に市町村ごとの財政事情、
文化行政に関する予算との関わりもあるのではないかと推測されます。

<委員> 10月に定例開催されている野村記念講座について、今まで20年以上も芸大の嶺先
生を中心に進めてこられたと思いますが、もう既に80歳を超えてこられたということ
もあり、今後の進め方については音楽・文学それぞれ数名の専門家等からなる運営
委員会を組織して、企画運営されて行っは如何かと提案させていただきます。

次に会議の持ち方について、せっかく東京など遠くから委員の皆さんがお集まりに
なる年一回の会議な訳ですから、もう少しあと1時間くらい時間に余裕を持って開催
していただきたい。

<教育長> 来年の審議会開催に向けて留意事項として、検討させていただきます。

<委員> 野村学芸財団に新しい理事長を迎えまして、この間、就任式が行われました。新理
事長は高橋利宏先生でとても優秀な方でございます、作新大学の副学長をされた方
で、ご自分の宿命だと思って取り組むと仰っていただいております。

財団も非常に円満に推移しておりまして、とても気の合った人たちと運営している
といった状況です。やはり学生の貧困というのは、本当に深刻な状況にあります。母
子家庭で母親がパートで子どもを育てているというような、経済的に非常に厳しい世
帯などに優先的に奨学金を給付しております。

奨学金は、少額ですが定額（大学生：月額21,000円、大学院生：月額40,000円と
研究助成費）の返済義務の無いもので現在は給付を行っています。

堂子会コンサートというものを開催しておりまして、来年の10月20日に予定して
おります。あちこちに堂子会があるようですが、やはり東京が一番活動が盛んでこの
コンサートは、一流の演奏家たちが出演料無しで出ただけの非常にレベルの高い
コンサートでして、私も楽しみにしておりますし会場もすぐに満員となるくらい、非
常に盛況なものですので、興味のある方は是非お出でください。

もうひとつは日本作家クラブという社団法人が、野村胡堂の名前を冠して立ち上げ
られた野村胡堂賞、その第1回目が昨年10月下旬に行われました。奇しくも今年4月
には、なんと「あらえびす文化賞」というものが創設されまして、野村晴一館長が授
賞式に出席されプレゼンターを務められました。授賞式のほかに6部門ほどの色々な
音楽分野の祭典が行われ、ジャズピアノやモンゴルの馬頭琴、琵琶法師など多彩な音
楽に関する催し物が展開され、非常にお祭りの色彩が強い催しでした。

こうしたことから、野村胡堂については忘れられているようで、まだ忘れられてい
ないと感じられたところでした。先の野村胡堂賞では福山雅治のつま弾いた銭形平次
のテーマソングDVDを聴くことが出来、大変ありがとうございました。

<委員> 前もお話ししましたが、テレビの銭形平次の話は、まったくご破算になった訳ではなく、CS時代劇チャンネルの日本映画放送というところで引続き検討されています。昨年頃から、大川橋蔵が主演した昔のテレビドラマがBSで放送されています。また、宮城谷昌光氏から寄贈を受けたクラシックCDの関係で、10月16日に宮城谷さんに随行して記念館を訪問したいと考えています。昨年度までは、記念館に勤務していた町職員の高田美保さんが窓口となり、野村館長との連絡調整役をしていただいておりますが、その後任として谷地室長か俵課長のどちらに連絡すればよろしいのか教えていただきたい。近くなりましたら、訪問の予定を組みたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

<教育長> 分かりました。内部で担当を決めてご連絡いたします。

<委員> お手元に配布しております「野村胡堂・あらえびす記念館のSWOT分析」という資料をご覧ください。私はロンドンにあるドクター・ジョンソンズ・ハウス（ジョンソン博士記念館）という小さな記念館の理事をしておりますが、ジョンソン博士は18世紀の軍人でイギリスの本格的な辞書を作った人ということで、地元で名前はよく知られてはいるのですが、なにせ18世紀の方ですので300年ほどが経過して、知っている人が段々少なくなってきております。

一番困っているのは、入館者が減ってきていることで、財政的に運営が難しくなっていることです。どうすれば入館者が増えて入館料が増加し、併せて土産物が売れて収益を確保することができ、今後いかに施設を運営していけるかということです。

そこで、以前この資料の4つの項目により、理事がそれぞれ強み、弱み、可能性、脅威について分析しなさいという課題が出されました。先頃までは筑波大の教授をしておりましてので、学生の協力を得ながらその時の手法に倣って、私なりに野村胡堂・あらえびす記念館を分析してみた結果がこの資料です。

（以下、江藤委員が資料に基づき4つの項目〔強み、弱み、可能性、脅威〕ごとに説明する。）

特に可能性の部分を「弱み」と「強み」の比較分析から考えると、もっといろんな活用の仕方が見えてくると思われま。先ほど説明のあった5年計画（中期運営方針）に合わせていきますと、更に将来の姿が良く見えてくるように感じます。

ここで大事なことは、「弱み」から考えて、次の世代にどんなふうにして野村胡堂と『銭形平次』や音楽評論のこと、或いはそれ以外の業績を伝えていくか、工夫が必要との観点から、先人が専門の楽団が無い時代にレコード聴きながら、この国に多くの制約を乗り越えてクラシック音楽をいかにして伝え、現在に至っているのか。この辺のことを音楽の先生を集めて、講習会などを通じてご理解いただき、音楽鑑賞文への応募勸奨等を含め、教育現場からも後世に継承する取り組みを行っていただきたい。

また、「可能性」の話で『銭形平次』を懐かしむ団塊の世代が多くいることを好機と捉えて、記念館まで行ってみようかという気持ちをどうやって起こさせるか。その辺の作戦をどう立てるかが課題となってくると思われま。

BSで今、捕物帳など時代劇が好調だとすれば、胡堂の作品を記念館ホールで時間帯を決めて、大きなスクリーンで上映し場合によっては、音楽イベントと結び付けることも手だと思いま。著作権などクリアしなければならない問題も多いと思われますが、挑戦してみる価値はあると思いま。

さらに時代が古くて団塊の世代も知らない無声映画などを取り上げて、活動弁士やBGMを付けるとどうなるかなど、好奇心をくすぐる企画があっても良いと思いま。記念館へ行って良かったね。勉強になったね。楽しかったね。と言われさらに口コミで広がるような事業展開がなされることを期待したいと思いま。このように4つの項目に分けて分析し、有効な手立てを考えるツールとして活用いただきたい。

最後に先ほどの学芸員の任期付きの件について、大学での状況をお話しすると1つは財政的な面と、もう1つは学問の進歩の速さ特に理科系の学問の場合は、新たな研

究素材が出てきたらプロジェクトを作って3年または5年の任期の中で、成果があれば継続し、成果が出なければ、そこで終わりという限られた中で力を発揮しなければならぬ現場の実情があります。しかし文科系の場合は、反対が多くてやはり積み上げの重要性がありますので、先に皆さんおっしゃっていたように学芸員を採用するのであれば、この記念館にほれ込んで長く活動でき、この記念館のために一生懸命やっついこうという”愛館精神”が育つような、期限付きではない職員で、できれば財団関係の方が地元の方の採用が得策だと思います。

<委員> テレビの『銭形平次』についてですが、東京エリアでは毎週見られます。先週も見てきましたが、夕方5時頃から1時間番組で流すのです。もう故人となりましたが、山本夏彦という有名な批評家がおられて、口の悪いので有名だったのですが「私は、テレビは見ない。しかし銭形だけは見てくる。」という有名な言葉を語っております。こういう考え方の人がまだいると思われます。しがってスポンサーを募って、地元のテレビで再放送する方策を考えて欲しいと思います。地元のテレビで流すというのは、県民に対する1つのデモンストレーションではないかと思うのです。

高橋克彦（記念館名誉館長）さんみたいな方がいて、番組解説などをしてもらうとともに、彼のルートを通してテレビで記念館の紹介をしていただく方策を開拓してみたらどうでしょうか。これが一番の啓発になるのではないかと思います。

<委員> 地元の紫波町に住んでいる人間として、発言させていただきますと町民がもう少し集える場所であって欲しいと感じます。

記念館の芝生から西の山並みに夕日の沈む光景が素晴らしく、紫波町の三大ビューの一つではないかと思っています。

大変ロケーション的にはよいのですけれども、家族連れが来てここで一日を過ごすことは出来ないと思われますので、ここから北に位置する大正園まで遊歩道を整備するなど、ここに来て何かアクティブに活動できるような工夫により、記念館周辺を広がるのある空間として活用して、まさにピクニック感覚・遠足気分で来訪できる家族連れで遊べるゾーンになるのではないかと感じました。

『銭形平次』を知らない世代がでてくるというのは、そのとおりに思われます。夢のような話をすると、胡堂作品をアニメ化できれば、子どもたちなど胡堂を知らない世代にも理解が広がると思われます。

音楽のファンに関して話しをすると蓄音機とか古いレコードというものは、いまだに愛好家がいてなくなる分野だと思います。このたび東北で初めて設立した「みちのく盛岡広域連携都市圏」の構成8市町など大きな枠組みの中で、記念館が所蔵している音楽関係の資料など、お宝を広く発信してこの施設を知っていただけるような取組み、例えば、友人として石川啄木・金田一京助、猪川塾の塾生など親交のあった同世代の方々がいる訳ですが、そうした人々を顕彰する記念館あるいは団体と連携して、お互いに交流しながら行き来するようになればよいと思われます。

先ほど音楽学校の学生を呼ぶというお話は、大変よいなと思ったのですが、紫波町にはあまりホテルがありませんし、学生さんは料金が安い方がよいと思うので、グリーンツーリズムではないですが、地元の彦部の方たちの協力を得てホームステイしながら、練習・演奏活動をしていただけたらなと感じたところでした。

<教育長> 先ほど鈴木委員から宮城谷先生の話が出ましたけれども、実はCDを約3千枚ご寄贈いただいております。今、整理・分類作業中ですが、とても貴重なお宝が沢山あります。野村胡堂のSPレコード、岡堂コレクションに匹敵するような大変珍しいCDもありますので、今後の活用方法も含めて考えていきたいと思われます。

もうひとつ記念館の裏山について、これは民間の土地なのですが所有者の方々等が中心となって遊歩道整備計画というものが今、動き始めております。内容が分かりましたら手短かに報告願います。

<事務局> 地権者の了解を得まして、記念館すぐ裏手の山林4haほどに散策路や展望台を設置し、将来的にはアスレチック等の遊具なども設置して、子ども連れの来館者などにも楽しんでいただけるような、記念館と一体となった整備を行うことで現在、計画が進んでいるところです。

<教育長> 今の説明のとおり現在進行形で、遊歩道の整備が進んでいるところです。ただ、近くに小学校のプールがありまして、あまり接近しすぎると不審者等の関係で問題がありますので、適当な距離を取りながら一帯の整備を行っていく予定です。これにより新たな展開が生まれてくるのかなと感じております。

<委員> 昨年暮れに東京で野村学芸財団の懇親会がありまして、その時、高橋利宏先生に盛岡一高から毎年、財団の奨学生として採用されているのが、去年は無かったと言うけれども、君は知っているか。と聞かれたものですから、早速、盛岡一高の平賀校長に電話したところ、ちょっと認識の違い（学芸財団からの奨学金に関し、盛岡一高在校生の推薦枠が毎年確保されているとの認識）があつて、かつて箱石先生が役員をなさっていた時には、私も箱石先生からご指導を受けていた訳ですが、その辺の連携が薄れていると感じており、改善を図っていきたいと思います。

今後の記念館の運営方針にもありますとおり、記念館と堂子会の活動が有機的に結び付くことの基盤になってくると考えられますので、できることからパイプ役となって継続的に働きかけて行きたいと思っておりますし、私の務め（記念館運営審議会委員と岩手堂子会会長としての）でもであると認識しております。

<館長> お忙しいところ大変ありがとうございました。現在、記念館には4人のスタッフがおりますが、音楽のほかに文学まで手を伸ばして、皆さんに理解していただくというのは、今のスタッフの中では重荷となってきています。

そこで、今いる音楽関係の学芸員のほかに、以前は音楽関係の方が手薄だった訳ですが今は音楽が中心で、文学関係がおろそかになっているきらいがあることから、文学関係の学芸員を配置して力を入れていきたいと考えております。

先ほど裏山の話もありましたが、地主さんから記念館の集客効果が上がるのであれば、どんなふうに使ってもいいとの申し出を受けて、関係者間で話を進めてきたわけですが、実際の整備にあたって（地権者の地元建設会社から）重機を無償で出していただき、散策路を切り開いてくださいました。

今後は、7月9日から間伐材の木材チップを2回に分けて散策路に敷くことになっております。その経費につきましては、他のNPO法人との連携によりまして、出来るだけ補助金をいただきながら、裏山の整備を進めたいと思いついて計画を進めております。

それに伴いまして、8月に予定しております夜の昆虫観察会など、裏山を使った体験型のイベントが、ますます充実することになるだろうと期待をしているところです。

<事務局> お手元にお配りしております新聞記事の写しは、地元の中学生在が記念館のことについて投稿したもので、先日、岩手日報に掲載されたものですので、お目通しいただければと思います。

<委員> 来年の野村記念講座について、財団の事務局長の吉野忠彦さんを講師に、確かりトアニアの日本大使を務められていた杉原千畝に関する講演が、大変すばらしいのでは是非よろしくお願ひしたいと思います。

現地では、「杉原千畝通り」ができていくくらいですから、大変に有名な方で世界的にも知られている方です。胡堂は、なにせ人道主義の方でしたので、そうした考え方にもよく合うと思われまますので、実現くださるよう改めてお願ひします。